

# 毎日新聞 5万号の歩み



毎日新聞東京本社があるパレスサイドビル＝東京都千代田区

毎日新聞は2月12日に5万号を迎えます。現存する日本の日刊紙では最も伝統があり、今年で創刊143年となります。

毎日新聞は明治維新直後に政治の中心地の東京で初めて発刊された日刊紙「東京日日新聞」と、経済の中心地の大阪に生まれた実業紙「大阪毎日新聞」



明治5年に創刊された東京日日新聞

とが、明治末期に一体化して発展してきました。

東京日日新聞は1872年(明治5年)2月21日に創刊されました。社説欄の創設、口語体の文章の採用、号外の発行などが行われ、近代的な新聞の基礎が固まりました。1875年には、世界で初めての新聞の戸別配達を実施。のちに首相となる加藤高明が第4代社長を務めました。

大阪毎日新聞は1876年2月20日に大阪最初の政論新聞として創刊された大阪日報の流れをくみ、1888年11月20日に発行が始まりました。のちの首相の原敬が第3代社長を務め、1911年3月1日、東京日日新聞と合併しました。



東京日日新聞第4代社長、加藤高明



大阪毎日新聞第3代社長、原敬

## ●多くの人物が活躍

加藤高明や原敬の他にも多くの人物が毎日新聞で活躍しました。

1928年のアムステルダム五輪に出場し、女子八百メートル走で銀メダルを獲得した人見絹枝は大阪本社運動課に所属。農学博士で教育者の新渡戸稲造は英文毎日の監修に尽力しました。また、文化勲章受章の作家、井上靖は芸芸部副部長や論説委員などを歴任しました。

## ●各種の事業も

新聞発行だけでなく、各種の事業やイベントも展開してきました。

1939年には、本社航空機ニッポン号が国産機初の世界一周飛行に成功。日本の技術力とチャレンジ精神を各方面にアピールしました。

1918年に全国中等学校フットボール大会(現在の全国高校ラグビー大会)、1924年に選抜中等学校野球大会(現センバツ高校野球大会)を始めました。



羽田に到着した世界一周機「ニッポン号」

毎日新聞は、日本新聞界のグランプリである新聞協会賞(編集部門)の通算受賞回数最多記録を更新し続けています。こうして歴史を重ねることができたのも、多くのみなさまが世代を超えて読み継いでいただいたからです。これからもどうぞご愛読ください。

## ●3万号時には、三宅新聞店が福島市・弁天山に展望台を寄贈

1959年(昭和34年)には、三宅新聞店などの毎日新聞販売店の会「福島県毎日会」が、3万号を記念して、福島市の弁天山にコンクリート造り2階建ての展望台を寄贈しています。展望台の塔の中には福島全県の毎日新聞愛読者の芳名録が納められました。展望台は2003年に老朽化のために取り壊されましたが、三宅新聞店の記念すべき文化事業の一つです。